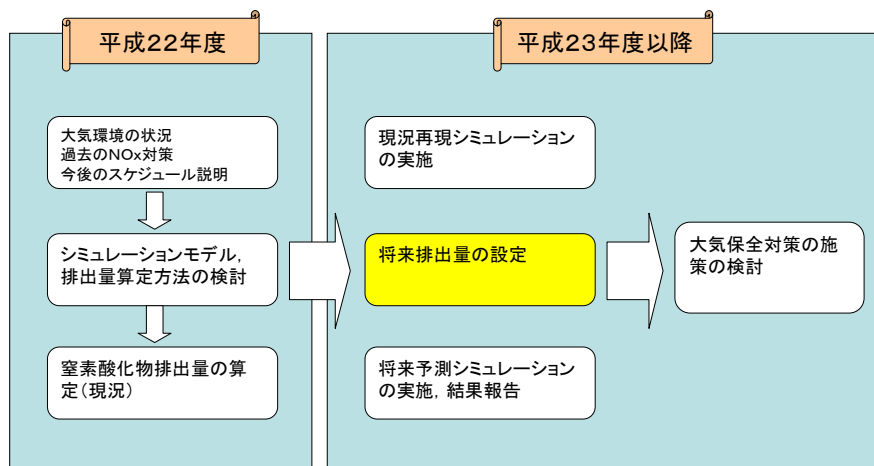


# 窒素酸化物将来排出量の 設定方法について

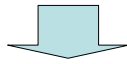
平成23年11月15日  
千葉県環境審議会大気環境部会

## 「今後の窒素酸化物対策について」 検討スケジュール



## 窒素酸化物排出量の精査

- 千葉県内における現状の窒素酸化物排出量（平成20年度）については、年間7万9千トン弱と推計された。
- 「漁船からの排出」及び「自動車におけるコールドスタートによる増分」について排出量を算出の上、現状の排出量に追加する。



現状の窒素酸化物排出量の確定

3

## 現況再現シミュレーションの実施

- 現状の窒素酸化物排出量を元に、シミュレーションを行い、平成20年度の環境濃度を再現できるか確認を行う。
  - 予測は「窒素酸化物総量規制マニュアル方式」で行う。
  - 平成20年度の窒素酸化物排出量を用いる。
  - 平成20年度の気象条件により行う。

4

## 将来排出量の設定(単純将来)

- 現状の窒素酸化物排出量から将来の排出量を推計し、大気環境シミュレーションにより、将来の環境濃度の予測を行う。
- 将来排出量の設定に当たっては、現在の施策が継続して実施されるものとし、エネルギー需要や人口の変化、最新規制自動車の普及(機器の代替)等を考慮する。

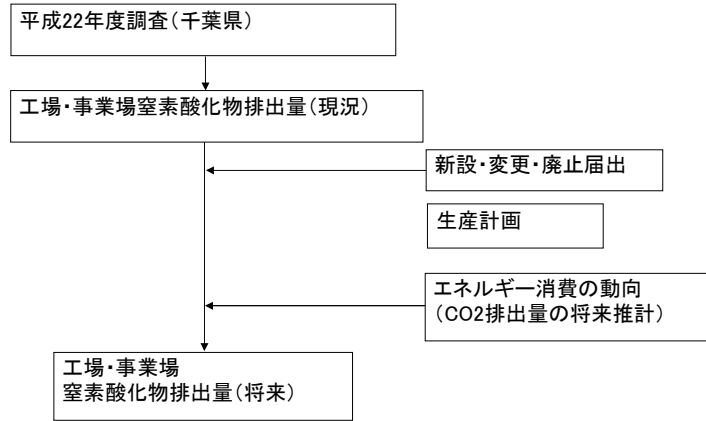
5

## 単純将来排出量推計方法の概要

発生源	考慮する内容
工場・事業場	現状規制の維持 平成21年度以降の新設・変更・廃止 今後の生産計画
一般家庭	世帯数の変化
自動車	単体規制・車種規制の継続 新型車への自然代替 交通量の変化
船舶	貨物量の増加 新規制船への自然代替
航空機	発着枠の拡大 航空機の構成の変化
漁船	漁船数の変化
群小発生源(小規模ボイラー)	エネルギー需要の変化
群小発生源(小型焼却炉)	人口の自然減 ごみ量の減少
建設機械類	新車への自然代替

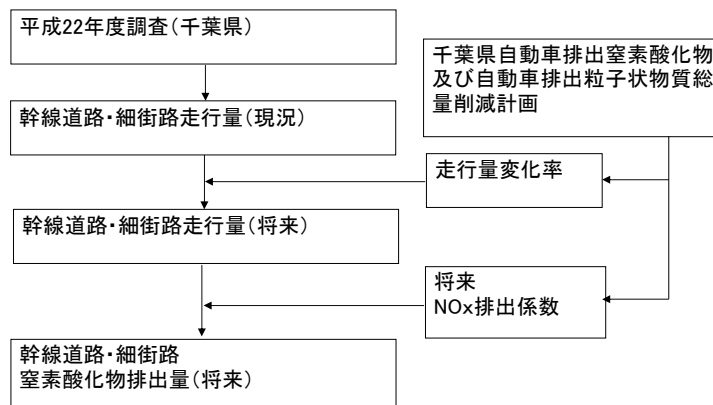
6

## 将来排出量の設定方法(工場・事業場)



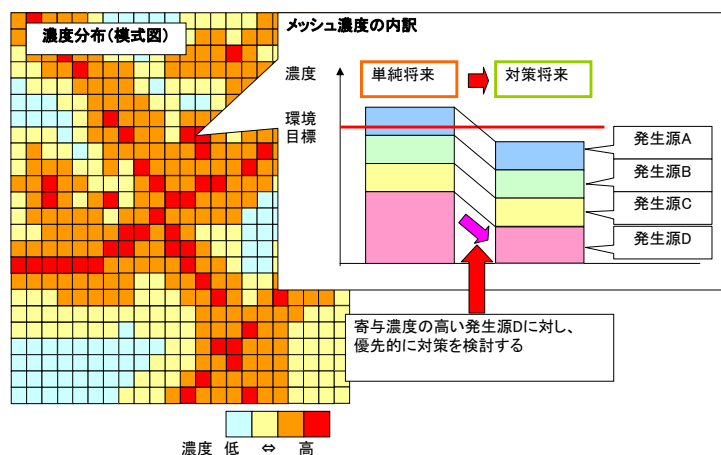
7

## 将来排出量の設定方法(自動車)



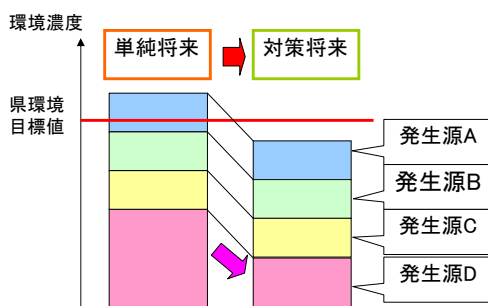
8

## 将来予測シミュレーションについて



9

## 将来予測シミュレーションについて



- 推計した将来排出量により、将来の環境濃度の予測を行う。
- 予測結果を県環境目標値と比較する。目標値を超過した場合には、排出量を削減したケースについても、環境濃度予測を行い、目標値を達成する排出量の検討を行う。
- 排出量の削減に当たっては、環境濃度への低減効果が高い発生源を調査する。

10